

ChainFlow 流通BMSオプション ChainFlow

話題の流通BMS(次世代EDI)を容易に実現！ JCAの世代交代はさらに加速

遅い伝送スピード、少ないデータ種などJCAの問題点は分かっているものの、新しい仕組みに乗り換えるのは大変な苦労を伴います。しかし、次世代は確実に近づいています。

ChainFlow流通BMSオプションを使えば、WebEDIと流通BMSとを一つの環境で実現でき、受発注業務全体のスピードアップと効率化が実現できます。

特長

Point 1 ▶ 流通BMS採用によりデータ受信を高速化、標準化！

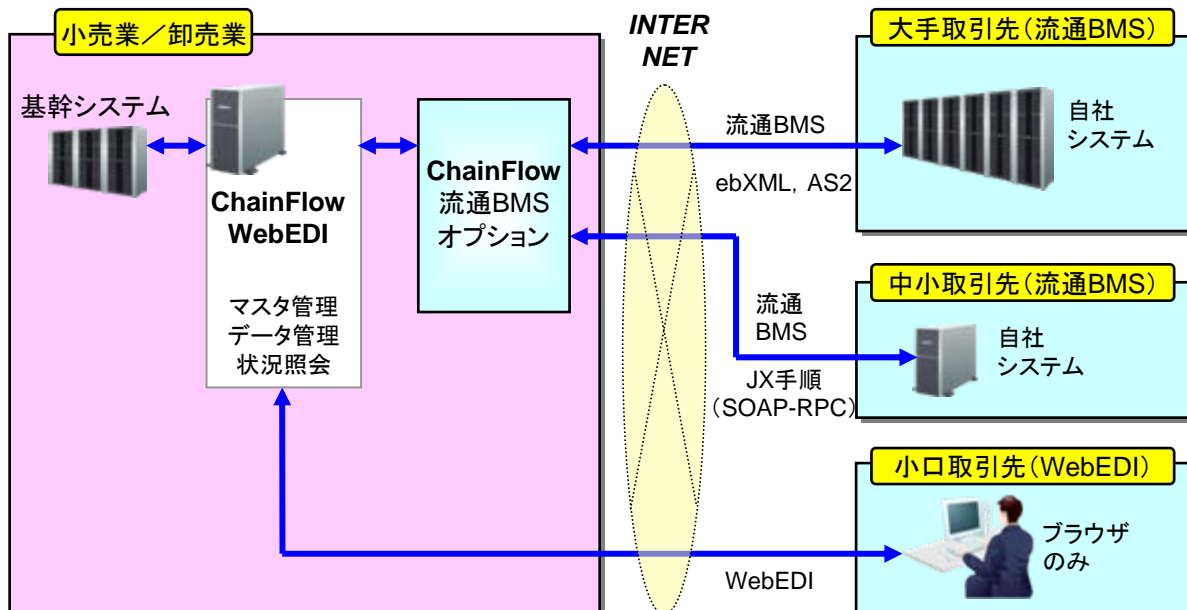
- ✓ 老朽化しつつある公衆回線用通信機器は不要となり、ホームページやメールで使っているインターネット回線をそのまま使用できます。
- ✓ 高速なインターネット回線へ切り替えにより、公衆回線と比べ通信時間は数十分の一に。
- ✓ XMLメッセージ採用により、取引先毎にばらばらだったデータ内容の標準化を実現。受発注業務の大幅な効率アップが期待されます。

Point 2 ▶ 流通BMSシステム活用のための豊富な機能をご提供

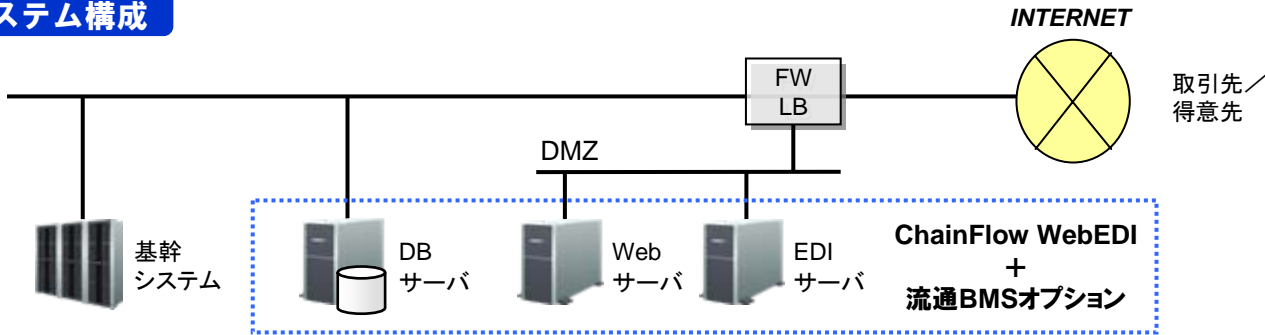
- ✓ 取引先サーバとの通信に使用するebXML MS, EDIINT AS2、取引先クライアントからの接続に対応するJX手順(SOAP-RPC)サーバ機能の3手順全てに対応。
- ✓ データフォーマットの変換機能を内蔵。個別フォーマットによる通信を行う場合も、インターフェース開発コストは最小限。
- ✓ JCA同様のデータ再送機能をJX手順プロトコル上で実現。取引先のイレギュラー操作も簡単。
- ✓ オプション追加で、JCA通信にも対応可能です。

Point 3 ▶ WebEDIとの共用で、大手企業から中小までEDI化率をアップ！

- ✓ 取引量の多い大手企業とは流通BMSで、自社システムを用意できない中小企業や取引量の少ない取引先とはWebEDIで、EDI化がいつそう進みます。
- ✓ 取引先、データはChainFlowシステムで一元管理。基幹システム側の連携機能構築も簡単。
- ✓ Web商談、POSデータ分析といったChainFlow独自の機能と、流通BMSの受発注機能とを組み合わせ、取引先協業による業務コスト低減を実現。



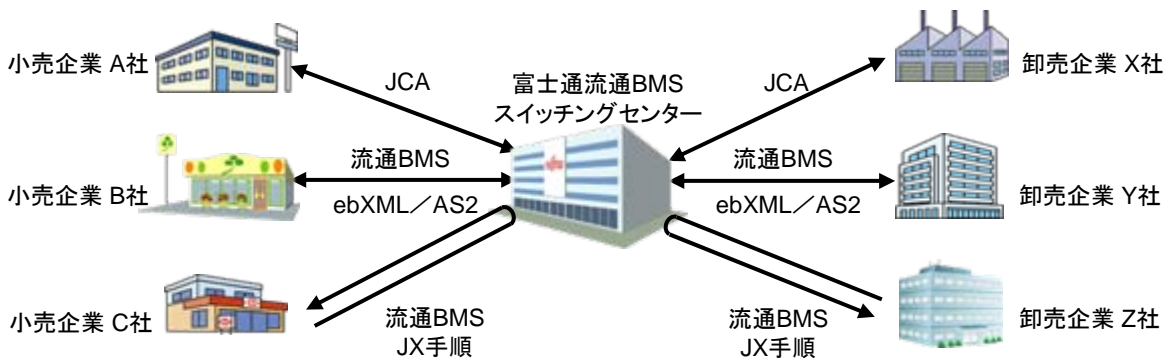
システム構成



ASPサービスメニューご紹介

流通BMSスイッチングサービス

流通BMS通信パッケージを用意したASPセンターを富士通IDCにご用意。
 小売企業自身は従来どおりJCA対応をしていますが、スイッチングセンターが代わってデータを変換し、取引先に対して流通BMSでデータ伝送を実施。
 逆に、流通BMS対応の小売企業とJCAの取引先とを結ぶことも可能です。



データの分解, 集約や、WebEDIとの併用など、オプションサービスもご用意しています。

ご参考

流通BMS(流通ビジネスメッセージ標準/次世代標準EDI)とは、経済産業省の流通システム標準化事業によって策定された次世代EDI標準のこと。2005年より小売業12社によるWGで活動を開始し、2006年に実施された共同実証結果を基に、2007年4月に流通ビジネスメッセージ標準Ver1.0が発表されました。
 現在、一部の企業では既に実運用が始まっており、並行して対象商材の拡大に向けた活動が継続されています。
 富士通では、ChainFlow ファミリー製品にて流通BMS対応システムの構築をお手伝いします。



ChainFlowは、富士通の環境貢献ソリューション基準に適合しています。



ChainFlowは GLOVIA smart 連携商品です

株式会社富士通中部システムズ(FJCL)

流通・サービスシステム事業本部
 第一流通・サービスシステム部

〒460-0003 名古屋市中区錦2-9-29 ORE名古屋伏見ビル
 TEL: (050) 3016-6122(直通) FAX: (052) 201-7952
 E-Mail: chainflow@cs.jp.fujitsu.com

<http://jp.fujitsu.com/fjcl/services/chainflow/>